琉球大学附属図書館報　　ISSN 0286－8229

VOL. 22 No.4 The University of the Ryukyus Library Bulletin. 1989. 12. 20.

湧川清栄氏から蔵書恵贈

このたび附属図書館では、永年ハワイタイムスの編集長を勤め、また日本国ホノルル総領事館の顧問であった湧川清栄氏から蔵書約16,000冊の寄贈を受けました。

同氏は明治41（1908）年に本県の今帰仁村に生まれ、12才でハワイに渡り昭和6年（1931）年にハワイ大学を卒業されました。第二次世界大戦中に米国本土で執筆された、日本の小作制度に関する論文は、戦後マッカーサー司令部が実施した農地解放政策のモデルの一つとされています。また、戦後一早く「沖縄救済更生会」を設立して郷土から留学生を招き、沖縄の高等教育の育成を図るなどの救援活動を行いました。平成元年7月には、これらの功績に対して沖縄タイムス賞が授与されています。

今回の寄贈も、60余年にわたって収集された蔵書を、郷里である沖縄の青年のために役立てたいという氏の強い要望が実現したものです。寄贈図書は大部分が洋書ですが、ジャーナリストであった氏の広範な関心を示すように、人文科学、社会科学、自然科学の全領域にまたがっています。

中でも、政治、経済、社会学、文化人類学、歴史、地理等の分野が充実しており、熱心な収集ぶりが窺えます。また、氏のご専門ではありませんが、米国文学の分野については、学内の関係教官

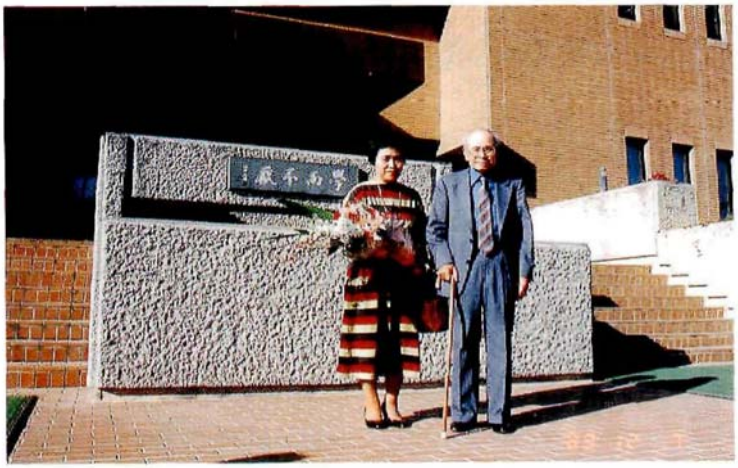
目　次

湧川清栄氏から蔵書恵贈……1
「沖縄風俗絵巻」について（池宮正治）…3
学術講演会の開催について……9
図書館サービスと著者権保護について思うこと（山里道子）……10
電算化日録……11
教官著作寄贈ご案内……12
図書館事情……13
医学部分館コーナー……14
編集後記……16
<お知らせ>年末年始の休館及び開館時間……16

に見ていただいたところ、数多くの初版本が含まれるなど貴重なコレクションであることが確認されました。

個人からこれだけ大量の寄贈を受けたのは、琉大始まって以来のことで、本学として感謝の意を表するためにハワイからご夫妻をお招きしました。12月7日（木）に学長から感謝状を贈呈しましたが、県知事表敬訪問や講演等の諸行事の合間に、図書館にもお出でいただきました。整備された「湧川コレクション」を前にして、ご夫妻のいかにも感慨深げな、また安心された様子がとても印象的でした。何しろ、この春に安冨祖館長がハワイの自宅を訪ねられた時には、各部屋とも床から天井まで足の踏み場もないほど本が積まれ、このほかにも親戚や知人の家に預けてあったとのことです。氏の研究熱心さや図書に寄せる思い入れは、館内案内の途中に伊波普猷文庫や島袋源七文庫に対する質問からでも強く感じることができました。

現在「湧川コレクション」は暫定的な整理作業を終えて1階書庫に配架しており、近く所蔵リストを電算出力し、関係機関に配布する運びとなっています。また、「湧川コレクション」の詳しい内容については、いずれ改めて紹介する予定です。



湧川清栄氏ご夫妻

湧川清栄文庫

「沖縄風俗絵巻」について

－熊本大学附属図書館所蔵－

池　宮　正　治

伝統的にわが国の文献研究は、絵画資料を軽く見てきたきらいがある。しかし絵画資料は、その描かれているものによっては、ことばより遙かに豊富な情報を内包している場合もあるのであって、したがって我々はできるだけビジュアルナ資料を収集して、その解析を通して、生き生きとした「過去」を表現したいものである。

沖縄の伝統的な風俗を絵巻にして紹介したものと言えば、これまで、ハワイ大学フランク・ホーレー文庫に所蔵されている、仲宗根璋山（査丕烈）の「沖縄風俗絵画」がよく知られている。1889（明治22）年に描かれたもので、83年に本邦書籍からカラーで、折本のかたちで出版されているので、ご覧になった人も多いかと思う。またこれとよく似た絵巻が、国会図書館にも所蔵されているので、これを見た人もおられるかも知れない。

さて今回発見された絵巻は、これとまったく別のもので、璋山の絵巻よりも多くのシーンが描かれており、それに絵の仕上がりも色彩もなかなかよくできていて、その資料的価値は言うまでもなく高い。それ故若干の特徴を述べて大方に紹介したく思う。

この絵巻を発見したのは、本学附属図書館の橋本健一情報管理課長で、88年10月31日、熊本大学に出張した際発見、早速手配してカラー複写による冊子本にして、今年の２月に本図書館で見られるようになったものである。

この絵巻は「沖縄風俗絵巻」といい、旧五高の角朱印があり、戦前に収蔵されていることが分かる。紙本（巻子）。彩色。縦30センチ 横20米17センチ 。作者・製作年代ともに不明。しかし後述の理由で、明治初年から半ばにかけてのものであろう。描写に誤りが見られないこと、つまり正確なことから、作者は沖縄の人とみられる。

画面は表題をつけて52区画に分けられている。先ずその表題を紹介する。

（1）首里城　（2）[上下簪類]　（3）[入れ墨]　（4）平民婦人礼装　（5）王子　（6）王子婦人　（7）按司夫婦　（8）平民男女　（9）児童小姓　（10）王子　但十五歳未満　（11）士族男女　（12）士族行商　（13）平民反物売　（14）織機　（15）新郎　（16）新婦　（17）娼婦　（18）青楼遊宴　（19）田舎婦人揚梅売　（20）蜜柑売　（21）蕃藷売　（22）豚仔売　（23）糸満魚売　（24）八重山婦人　（25）甘蔗売　（26）西瓜売　（27）小間物売　（28）油揚売　（29）焼豆腐売　（30）陶器売　（31）茶売　（32）饅頭売　（33）塗物売　（34）古着売　（35）穀物売　（36）豚肉商　（37）牛肉商　（38）山羊肉商　（39）魚類売　（40）伏山敵討　（41）姉妹敵討　（42）女手踊　（43）二才踊　（44）鶴亀踊　（45）扇舞　（46）巫女（ユタ）　（47）三月舞　（48）尾類馬　（49）綱引　（50）士族葬式　（51）墓所　（52）洗骨

以上52区画のうち筆者が面白いと思ったもののうち、そのいくつかを思いつくままにコメントすることとする。

（5）の「王子」は、髭を蓄えた中年の王子が描かれている。後ろに供の少年二人を従えている。興味を引いたのは、ハチマチ（冠）の紐が耳の前と後ろに二本見えることである。このハチマチ、現在では、三線の地方や伝統芸能などの扮装にみられ、耳の前に通しているが、例えば、1832（天保3）年の江戸上りの舞踊絵巻や、明治の10年代のケスッチと思われる「沖縄人物図」（鹿児島県立図書館蔵）など、つまり近世期の絵画資料はすべて、耳の後ろから紐が掛かっている。これはこの中間的なものであろうか。

璋山の「沖縄風俗図」（以下「図」と呼ぶ）と同じモチーフのものも若干ある。これはこの絵巻の成立が、だいたいこの時代のものであることを暗示してもいる。まずこのことから指摘しよう。

（2）の［上下簪類］、（3）の［入れ墨］は同じ発想のもの。(12)（13）の「士族行商」「平民反物売」は、「図」では「那覇反物売」を連想させる。(14)「織機」は、糸を繰ったり他機を織ったりしている女性が5人描かれているが、そのうちの一人が、ガジマルの根に端を結んで機を織っている図は、「図」にもあり、作者不明の「樹下織婦図」（県立博物館蔵）にもあって、よく知られた構図である。

［絵巻］の、(15)（16）「新郎」「新婦」の図は、テーマは、「図」に行列の図があり、またこのモチーフは比嘉華山の婚礼図がよく知られている。その両方にない、新郎が、悪童どもに破れ傘の塵を振り掛けられたり、耳元で鉦を叩かれたりして意地悪をされている図が「絵巻」には描かれている。これは古い風習で、戦前まで地方に残っていた。

(18) の「青楼遊宴」の図は、遊郭で三線をひき、酒を飲みながら男女のかまびすしい声も聞こえてくるようであるが、これは県立博物館の，司馬江漢の朱字サインのある「婚礼酒宴之図」を思わせる喧騒である。

(20) から (39) まで（(24) の「八重山婦人」を除いて）は、那覇東町に立った市の様子である。「中山伝信録」に「女集」ともあるように、そこは那覇女の活躍の場であった。近隣の農村からここへ物資が集まる。このうち、(21)（22）(23)（27）(31) は、「図」にも出ている。ビーチ・パラソルのような大きな番傘の下で女たちがそれぞれの商売をしている。この風景はその後の写真にもあるので、戦前まであった風景であろう。

(50) の「士族葬式」は士族の葬式の行列図で、これも次の「墓所」も、「図」にある。繰返し言うが、これはモチーフが同じという意味であって、同じ図と言うのではない。

(20) の「蜜柑売」の図は男性（農民）の、天秤棒に担いで売り歩く図であるが、この傍らの平笠を破り、杖をつき、肩に袋を担っている若い女性の図は、似たような構図で、「図」に「田舎女首里登り人」とあり、これまた県立博物館に「旅姿女人図（田舎乙女の図）」（作者不祥）という美人画があり、また雑踊「ムンジュルー」をも連想させ、このころのよく知られた構図だったようである。

(23) の「糸満魚売」は、男が櫂に大きな魚をぶら下げて、女はザル一杯の魚を頭に乗せて大股で売り歩いている。これに対して「図」の「糸満人魚売」は女性一人、のんびり売り歩いている。「絵巻」の魚売図は、その点で県博の「魚売りの図」（作者未詳）によく似ているように思われる。「魚売り図」では男は櫂に大きな魚を三尾さげ、女はザルに小魚をいっぱい入れて、その上に蓋を

して急ぎ足で市へ向かっている。那覇では魚売りと言えば糸満の人と相場が決まっていたから、両者は風俗図という以上に、何らかの関連があるのかも知れない。

ここまで、士族の男性は、必ず日傘を持っている。身分の高い人は供の子者を引き連れ、その手には雪駄を持っている。これに対して農魚村の男女は、裸足で、必ず笠を持っていたり、被ったりしている。売手の那覇の女たちはみんな片膝を立てて座っている。これは先の「伝信録」の挿画にもあって、古い習慣である。尻を地につけ両膝を立てて座っている男が目立つ。今日ではまったく見られなくなったが、こうした座り方も一般的だったのであろう。帯を締めている女もいるにはいるが、労働をする農魚村の女まで、下帯に挟み込むウシンチーという着付をしているのが多いのは、若干意外な感じがしないではない。

那覇の物売りでもう一つ気になるのは、(28)「油揚売」のところにある、小便器をひっくり返したような素焼きの携帯用の竈のことである。よく調べればもちろんこれを覚えている人は多いだろうが、筆者の周辺にはこれを知っている人は少ない。それにもうその物もまったく残っていない。(30) の「焼物売」のところにも、素焼きの鍋（サークー＝砂鍋）などとともに出ているので、ごくありふれた器で、ジールグヮー（地炉）といった。

(40) から (48) ((46) を除いて) までは、芸能関係である。(40) (41) の「伏山敵討」「姉妹敵討」が絵画になっている例は他にない。それだけに貴重なものである。注目していいのは、「伏山」の鎧兜をしっかり着た図である。これは那覇中央の組踊ではまったく見られないが、本島北部や多良間島や八重山では、こうした鎧兜を着用した組踊がよく見られる。もちろん那覇もこうだった動かない証拠である。

(42)「女手踊」は、四人の女が花笠を被っている。この種の代表的な舞は「伊野波節」てある。この花笠の形が、平笠と深鉢型の今日の花笠の中間的な形をしていて、これもこの絵が明治になってからのものであることを裏付けている。

(43) の「二才踊」は二才ザイ踊で揚げ作田節」ででもあろうか。

(44) の「鶴亀踊」は、今日では、「松竹梅」を加えているが、以前は鶴亀踊のみであった。鶴亀の作り物を頭に載いているのは同じだが、地方が琴・三線・笛・太鼓がすべて男性で、しかも小弓は中国楽に使っていた筒型の四弦（胡琴）である。これも珍しい。

(45) の「扇舞」は二才両扇子踊で、有名なところでは「上り口説」がある。

(47) の「三月舞」は、三月三日の女の節句で、手に手に小鼓を打ち円形になって踊っている。七月のウシデークに似ている。

圧巻は (48) の「尾類馬」の図で、これは沖縄では「二十日正月」といって、那覇の辻の遊郭の女たちが、春駒風の駒形を前帯に挟んで、ユイユイ、ユイユイといって練り歩いた年中行事の一つだった。何と三メートル余の中には、綱引に出てくる旗頭、夏の豊年祭に出る獅子舞いミロク、それに寿老人、冊封使行列、組踊にも取り込まれている若衆薙刀舞い、高平万満の扮装、稲摺り節らしい踊など、まるでごった煮である。三線を弾いている者がすべて肩からかけた帯紐に三線を掛けているのも面白い。エイサーなどでかつて見掛けたこともある、と聞いたこともある。これにもはやり廃れがあるらしい。

(52) の「洗骨」は、墓にいったん収めた遺骸を取り出して湯灌させて厨子に納める葬礼で、最近まで全島的に見られた。これには男は参加せず、女ばかりで執り行うことになっているが、この図には男も混じっている。

見れば見るほど興味が湧く楽しい絵巻で、筆者もつい約束の紙面を大幅に超過してしまった。一覧をお勧めする。

(いけみや・まさはる：法文学部教授・琉球文学)

5 王子　6 王子婦人

12 士族行商　11 士族男女

14 織機

15 新郎

16 新婦

18 青楼遊宴

20 蜜柑売　19 田舎婦人揚梅売

22 豚仔売　21 蕃薯売

23 糸満魚売

26 西瓜売　25 甘蔗売

28 油揚売　27 小間物売

31 茶売　30 陶器売

33 塗物売　32 饅頭売

40 伏山敵討

42 女手踊

44 鶴亀踊

46 巫女（ユタ）

41 姉妹敵討

43 二才踊

45 扇舞

47 三月舞

学術講演会の開催について

去る11月16日（木）に学術情報センターの田中久文管理部長を講師として迎え、２つの講演会を開催した。

先ず初めに沖縄県大学図書館協議会主催の研修講演会では、「学術情報システムにおける大学図書館の役割」のテーマで講演があり、県下の大学、短大図書館及び公共図書館から46名の参加者があった。

講演では、大学図書館、図書館行政、欧米の図書館視察、学術情報センターなど、氏がこれまでかかわってこられた豊富な経験をもとに、大学図書館及び大学図書館員が今後とも時代の変化に即応しながら果たすべき役割等について話された。

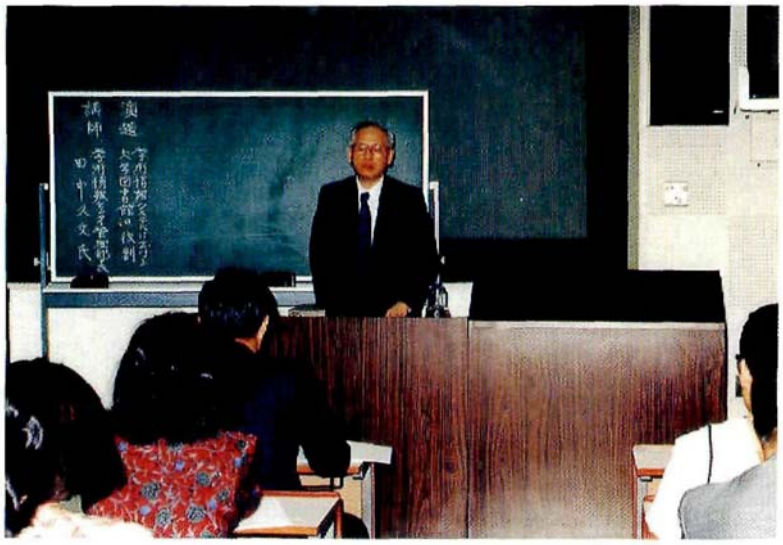
また、講演会終了後は参加館の代表者と、沖縄地区における学術情報体制のあり方などについて、親しく懇談された。

特別講演会では、「最近における学術情報システムの動向と学術情報センターの活動」のテーマで講演され、学内外の研究者を中心に78名の参加者があった。

ここでは昭和55年１月に学術審議会から答申された「今後における学術情報システムの在りかたについて」以降、我が国において推進されてきた諸施策の概要や、欧米の学術団体との提携を含む学術情報センターの事業について紹介があり、されにこれらのことがらが大学等における研究活動とどのように関っているかについて、具体的な例を挙げながら論じられた。

また、講演後もいわゆるＣＪＫ（中国語、日本語、朝鮮語）の電算処理に伴う標準化の問題等国際的な見地からの質疑が続けられるなど、参加者の熱心な態度が印象深かった。

この講演会が、学内及び県内の今後の研究活動や図書館活動にとって、大きな刺激となることを期待したい。



「図書館サービスと著作権保護について思うこと」
～平成元年度　図書館等職員著作権実務講習会を受講して～

山　里　道　子

私の職種がら今回の著作権講習会に参加できたことは、たいへん有意義であったと思います。日頃の対応の仕方、仕事の内容については、慣例に従いマンネリと言っては語弊がありますが、過去からの継続でさして不都合もないことから大過なく過ごしていましたが、講習会に参加して、色々と新しく認識させられ、なにげなく対応していた利用者への意識が、自分でも変わった気がします。

考えてみると、確かにやっていることは、講習会以前と、変化はありませんが、同じ対応の仕方の内にも、著作権の事が頭をかすめます。中には著作権に抵触するのではと思われる利用者がいたりして、その時には興味を持って対処しています。

さて、私は直接、図書館のサービス業務に携わっていまして、レファレンスサービスやコピーサービス等を担当していますが、著作権保護との関わりの中で、私なりに感じた事や、疑問に思った事など若干ありますので、それぞれの中で述べたいと思います。

身近な問題で、よくおこりがちな事ですが、ある教官が１冊の本の全頁コピーが欲しいと、複写依頼に来たところ、著作権法により全頁の複写は出来ないと話すと、次の日、２枚の依頼書を持って来て、前半頁はＡ大学へ、後半頁はＢ大学へ依頼するように言って来ました。図書館員が気付かずに受理すれば依頼された大学では知るよしもなく、利用者は目的が叶えられる訳です。しかし、その様にすると、簡単に法が破れるということが生じ、著作権を保護する体制が十分機能していない点に、私は時に焦燥感を感じます。

また定期刊行物においては、発行後相当期間を経過した著作物は、全論文複製が認められていますが、今までの経験上、新刊の方がよりコピー依頼が多いようです。私の学生時代のことから察しても、利用者の気持が分かるだけに、なかなか断りづらいこともあり、立場上、許可する訳にもいかず困っています。

以上のことを考えると、著作権を保護することについては、その法律に網目が大きく、保護法自体、十分理解されていない感があります。そういった事情の中では、１人１人が今回の様な講習会を受講し、内容及び実態を再確認し、法律の届かない所に気を配りながら、法を側面からバックアップすることが今の私達に課せられている責務だと痛感しています。

そういう意味において、特に著作権法の講習会は、法を理解する上で意義深いものだったと思います。

しかし、これらはエピローグが出てこないプロローグの様なもので、単に著作権と言っても前述の様な複製権だけでなく、著作隣接権などの実演家の権利、レコード製作者の権利……と色々ありますが、現在の科学の産物であるコンピューターおよびそのオンライン化、ファクシミリの性能向上、ビデオの普及等により、問題がより複雑化しています。

現在でも保護法の強化、体系化が急がれている中、中央の講習会だけでなく、地方独自の講習会、あるいは分科会を定期的に行うことが必要だと感じます。

私は今後も著作権について学習を続けながら、サービス業務と、法を守らなければならないこととのバランスを考えつつ、図書館業務に携わっていきたいと思います。

（やまざと・みちこ：参考調査係）

電算化日録

（1989年９月～12月）

９月６日（水）LEVEL30 導入作業開始（～12月26日）
図書館業務電算化委員会（第３回）
運用連絡班会議（第９回）
８日（水）OPAC検討小委員会（第１回～第10回、～12月14日）
20日（水）運用連絡班会議（第10回）
10月２日（月）富士通Kシリ-ズ 説明会
５日（木）情報処理センタ-講習会「統計デ-タ 処理パッケ-ジANALYST」
（～６日、参加者：本郷、赤嶺、栄野川）
11日（水）富士通講習会「OSIV AIMオンライン 設計」
（～13日、那覇、参加者：本郷）
31日（火）富士通講習会「AIM リカバリ- 」
（～11月２日、那覇、参加者：本郷，栄野川）
11月８日（水）NEC 講習会「オンラインシステム の基礎」、「情報通信ネットワ-ク」
（～10日、那覇、参加者：栄野川）
27日（月）図書館業務電算化委員会（第４回）（OPAC について）
11月29日（水）情報処理センターとの打合せ（OPAC について）
30日（木）富士通との打合せ（OPAC について）
12月11日（月）NEC 講習会「COBOL 入門、プログラミング」（～15日、那覇、参加者＝栄野川）
13日（水）富士通との打合せ（OPAC について）
14、20日（日）（木）学術情報センターオンライン目録システム運用テスト

教官著作寄贈ご案内

－1989. 5. ～1989. 11－

＜法文学部＞

池宮　正治

宜野座村字松田（古知屋）の組踊集（宜野座村及文化財（7）上、下）　宜野座村教育委員会 1989.

島袋　　邦

（1）論集・沖縄の政治と社会（地域科学叢書Ⅷ）　ひるぎ社　1989.

（2）現代沖縄の地方政治と国内的・国際的環境（昭和62・63年度特定研究紀要）　琉球大学法文学部　1989.

豊岡　　隆

近代会計の展開　今井信二先生古希記念論集編集委員会編　千倉書房　1989.

＜教育学部＞

金城須美子

沖縄の食文化の特徴　1988.

新垣都代子

（1）沖縄における婦人の役割に関する研究（昭和61年～63年度科学研究費（一般研究C）研究報告書）　丸善　1989.

（2）模合と地域社会－沖縄社会における模合に関する一考察－（DESIGN OF LIFE：生活文化史　No13）　日本生活文化史学会　1988.

前原　武子

教育心理学－コンピテンスを育てる　東江平之、前原武子編著　福村出版　1989.

＜理学部＞

宇地原敏夫

Photocatalytic Properties and Luminescence of Cadmium Sulfide Semiconductor Powders. 1989.

本川　達雄

（1）「生物の形とバイオメカニクス」　スティーブン　A. ウェインライト著　本川達雄訳　東海大学出版会　1989.

（2）カセットテープ

○琉球大学公開講座「歌う生物学」　1989.

○　　〃　　「瀬底の歌」　1983.

○　　〃　　「動物は動く」　1986.

○　　〃　　「デュークの春秋」　1989.

＜工学部＞

坂本　盤雄

沖縄の集落景観　九州大学出版会　1989.

上原　方成

講演録：沖縄の水資源問題－環境地盤工学上の諸問題として－沖縄開発庁北部ダム事務所 1989.

＜名誉教授＞

外間　宏三

外間宏三先生退官記念誌　同退官記念事業会　1989.

兼島　　清

兼島清先生退官記念誌　同退官記念事業会　1988.

杉浦　正輝

運動整理学　石河利寛、杉浦正輝共編著　建帛社　1989.

＜学生部＞

（1）琉球大学公開講座 9　「思春期の心とからだ」　琉球大学　1989.

（2）　〃　10　「地域からの発想」　琉球大学　1989.

図書館事情

［人事異動］

＜平成元年10月１日付＞

情報管理課課長補佐：大城喜久次（前阿南工業高等専門学校）

前情報管理課受入係：慶田恭二（医学部医事課病歴事務係へ）

情報管理課受入係：平良香代子（前医学部医事課外来係）

情報管理課受入係：伊佐牧子（前情報管理課整理係）

情報管理課整理係：赤嶺久夫（前情報管理課受入係）

＜平成元年11月１日付＞

情報管理課整理係：上原恵美（新規採用）

［主な行事］

平成元年９月22日（金）放送大学ビデオ学習センターに関する懇談会、放送大学

９月28日（木）平成元年度九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会議、九州大学

9月29日（金）第181回図書館運営委員会

議題：1．規程等の整備について　2．理学部数学科との懸案事項について　3．図書館資料の整備について

報告事項：1．湧川蔵書受入・整理について　2．共通図書費について　3．利用者オンライン目録（ＯＰＡＣ）と機械化について　4．ビデオテープの貸出について　5．学術情報システム講演会の開催について（平成元年11月16日）　6．放送大学地区ビデオ学習センターについて　7．その他

11月6日（月）第19回沖縄研究資料収集小委員会

議題：1．平成2年度「沖縄関係文献資料保存事業計画」について　2．「琉球大学附属図書館沖縄関係資料に関する取扱要項」の改正について　3．沖縄関係文献情報データベースの作成について

報告事項：1．平成元年度沖縄関係文献資料保存事業経費による購入資料について　2．劣化マイクロフィルムについて

11月9日（木）～10日（金）平成元年度国立大学附属図書館事務部長会議、東京

11月13日（月）～14日（火）第10回大学図書館研究集会、早稲田大学

11月16日（木）学術講演会

演題：最近における学術情報システムの動向と学術情報センターの活動

講師：田中久文学術情報センター管理部長

11月16日（木）沖縄県大学図書館協議会研修講演会

演題：学術雑誌システムにおける大学図書館の役割

講師：田中久文学術情報センター管理部長

11月16日（木）～17日（金）第3回国立大学図書館協議会シンポジウム（西地区）、神戸

12月7日（木）湧川清栄氏への感謝状贈呈式

医学部分館コーナー

平成元年10月3日（火）第25回運営委員会

議題：1．医学科大学院設置（学生進行最終年度）に伴う平成2年度新規購入コアジャーナルの選定について　2．BIOLOGICAL ABSTRACTS の今後の取扱いについて　3．琉球大学附属図書館利用規程及び同施設利用内規の見直しに伴う分館利用規程及び施設利用内規の廃止について

報告事項：1．齊藤厚委員の再任について　2．第37回九州地区医学図書館協議会について　3．複写機の増設について　4．試験期休日開館について　5．その他

［寄贈図書・雑誌］　平成元年7月～11月のご寄贈分について

オリエント出版社殿　「整骨・整形外科典籍大系」　全13巻

寺島真一（生理学）殿　「Cellular and Molecular Neurobiology」　Vol. 1 ～ 8

［新着案内］

細菌学

1．新細菌学入門（牛場大蔵・斉藤和久編）　南山堂　1988. 分類：QW4

寄生虫学

2．食品寄生虫（佐野基人）　南山堂　1984. 分類：QX4

公衆衛生学

3．環境白書（環境庁編）　昭和63年度版　大蔵省印刷局　1988. 分類：WA670

4．廃棄物年鑑　1989年版　環境産業新聞社　1988. 分類：WA778

臨床医学

5．図解臨床栄養学（池田義雄他）　医歯薬出版　1989. 分類：WB400

6．血清アルブミン（青木幸一郎他編）　講談社　1984. 分類：WA400

7．ボッカス消火器病学（J.E.Berk編　土屋雅春監訳）1　西村書店　1988. 分類：WI100

泌尿生殖器系

8．泌尿器悪性腫瘍管理マニュアル（勝田洋治・馬場志郎編）　医典社　1989. 分類：WJ160

内分泌系

9．内分泌病ケーススタディ（清水直容・飯野史郎編）　医学書院　1989. 分類：WK100

婦人科学

10. 産婦人科病理学診断図譜（宮地徹他）　杏林書院　1987. 分類：WP141

皮膚科学

11. 泌修皮膚科学（西山茂夫編）　南光堂　1988. 分類：WR100

小児科学

12. 小児疾患生活指導マニュアル（草川三治他編）　南光堂　1989. 分類：WS200

13. 小児腎臓病ハンドブック（和田博義・伊藤克巳編著）　南江堂　1988. 分類：WS320

老人医学・慣性疾患

14. 老化（美濃真）　化学同人　1985. 分類：WT104

病院

15. 病院要覧（厚生省健康政策局総務課編）　医学書院　1989. 分類：WX22

16. 看護学生のための日本看護史（看護史研究会編）　医学書院　1989. 分類：WY11

17. 患者の心を開く（小林司・桜井俊子）　メヂカルフレンド社　1988. 分類：WY87

18. 疾患別看護過程の展開　成人編　1（山口瑞穂子・吉岡征子監修）　学習研究社　1989. 分類：WY150

【お知らせ】

年末年始の休館及び開館時間（本館・医学部分館）

12月26日（火）
12月27日（水）　開館　08：30～17：00

12月28日（木）～1月4（木）年末年始のため休館

1月5日（金）開館　08：30～17：00

1月6日（土）より夜間開館

月～金　08：30～21：00

土　　08：30～17：00

編集後記

去る11月6日（月）から10日（金）までの間に、附属図書館本館と医学部分館の2ヵ所で、アンケート調査を行いました。

これは、読書週間にちなみ、図書館の蔵書充実を目的として、利用者のうち本学の学生だけを対象に実施したもので、両館で1,330名の方から回答が寄せられました。ご協力いただいた皆様にはこの欄をお借りして、厚く御礼申し上げます。

この調査によって、利用の実体や図書館への要望が浮き彫りにされていますが、詳細については次号で紹介したいと思います。ご期待ください。

琉球大学附属図書館報〝びぶりお〟第22巻　第4号〔通巻第85号〕
平成元年12月20日　発行
琉球大学附属図書館　〒903-01 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
電話(09889)5-2221 内線(2143)　びぶりお編集委員会